

はちまんづかこふん 八幡塚古墳セルフガイド

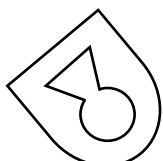
八幡塚古墳は、発掘調査の成果をもとにつくられた、当時の姿に復元された古墳です。

①～⑤の順番に回って、学んでいきましょう！

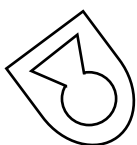
①の場所で古墳の形を見よう！

八幡塚古墳を上から見ると、「かぎ穴」のような形をしています。このような形の古墳を前方後円墳といいます。

この周辺には、3つの前方後円墳があり、「保渡田古墳群」と呼ばれています。



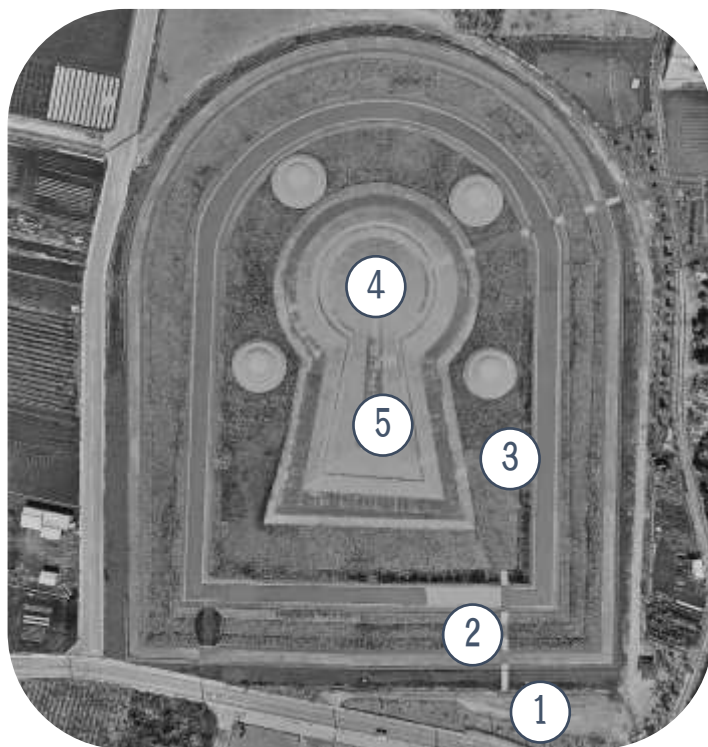
ふたごやまこふん
二子山古墳



やくしづかこふん
薬師塚古墳



はちまんづかこふん
八幡塚古墳

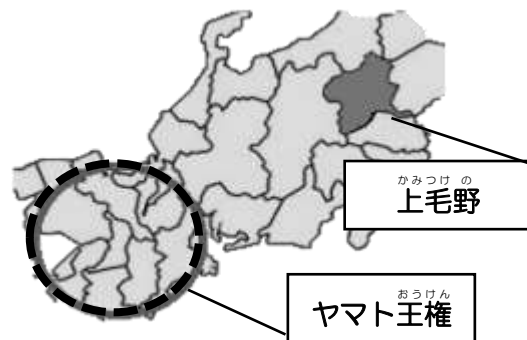


古墳の大きさ：全長 190m 墳丘の長さ：96m

？古墳はいつつくられたの？

保渡田古墳群がつけられたのは、今から約1500年前(5世紀後半から6世紀初め)の古墳時代です。古墳時代は、各地に大きな前方後円墳がつけられた時代です。

前方後円墳は、今の奈良県地域(大和地方)で最初につくられ、日本列島各地に広がりました。大和にとっても大きな力をもったクニがあらわれたのです。これを、ヤマト王権(大和朝廷)といいます。



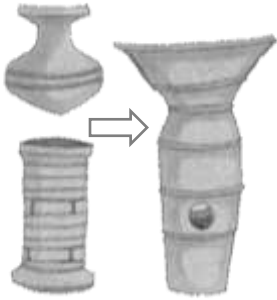
ここに
注目！

前方後円墳は、誰でもがつけられるわけではなく、ヤマトと強いつながりのある王(豪族)だけがつけることのできる古墳の形でした。

☆古墳の大きさや形から、八幡塚古墳にねむる王は、大きな力を持ち、ヤマト王権ともつながりのある人物だったことがわかります。

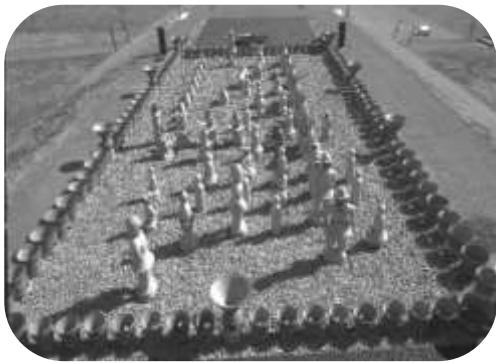
②の場所で埴輪を見よう！

埴輪とは、古墳に立てるためにつくられた焼き物のことです。大きく分けると「円筒埴輪」と「形象埴輪」があります。



埴輪のルーツは、弥生時代のお墓に置かれていた
お供え用のツボと、それを置く台といわれています。
台が円筒埴輪、ツボをのせた姿が朝顔形埴輪に
変化したと考えられます。

八幡塚古墳には約 6000 本の円筒埴輪が並べられています。



「形象埴輪」は、人、動物、家、道具などの形をした埴輪です。内側の堤
には形象埴輪が並んだ「埴輪群像」がありました。埴輪が見つかった場所
には、実物大の復元埴輪が並んでいます。

形象埴輪の1つである「盾持ち人埴輪」は、
古墳を守るガードマンのような役割を持つ埴輪
で、外側の堤に並んでいます。



ここに注目！

八幡塚古墳の埴輪群像では、「埴輪の並び方がわかった」という点がとても重要です。
埴輪はバラバラに見つかり、どこに立っていたかわからないことが多いのですが、八幡塚古墳
では、榛名山の噴火による洪水で埋まっていたために、並べられたときのようすが、とてもよく
残っていました。埴輪を研究する上でとても重要な場所です。

☆ 復元された埴輪群から、古墳時代の人たちが埴輪にこめた思いについて考えてみましょう☆

☆ 王を探してみよう！

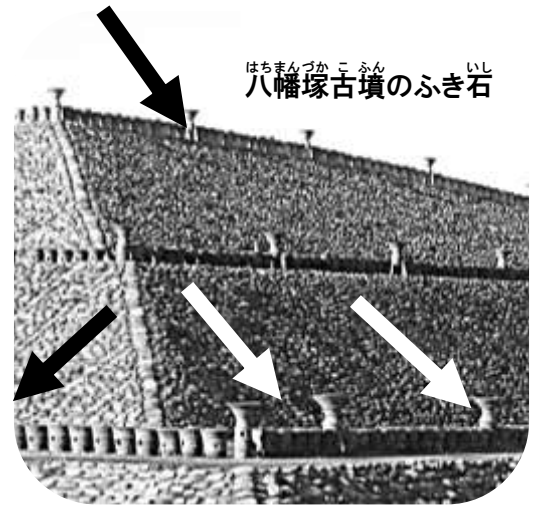
埴輪群像は 7 つのシーンに分かれていて、何人かの王様がいます
といわれています。ヒントを頼りに探してみよう！

- 【ヒント】
- ・「下げミヅラ」という二つ縛りのような髪型
 - ・大刀や冠など、豪華な装飾品を持っている
 - ・足までしっかりつくられている



③の場所で葺石を見よう！

古墳の表面の石をよく見てみると、タテに「すじ」になっているところがあります。これは、発掘調査で見つかったふき石のようすをもとに再現したものです。



八幡塚古墳のふき石

ここに注目！

このタテのすじは、1人(または1グループ)に割り当てられた作業の単位ではないかと考えられています。発掘調査の写真をよく見ると、幅や石の大きさには、区画ごとに差があります。



発掘調査で見つかったふき石

☆発掘調査で見つかったふき石のようすから、古墳づくりの技術者と共に、多くのムラビトが協力して行っていたのではないかと想像することができます。

④の場所で石棺を見よう！



古墳の頂上に登ったら、階段を下りてみましょう。ここは、王が眠る場所。竪穴式の埋葬施設です。発掘調査で見つかった石の棺が展示されています。



副葬品室

舟形石棺

ここに注目！

舟形石棺は、群馬のほかに北九州や中国地方などで多く見つかるとつながらりの強い地方の有力な豪族が多く採用した形といわれています。石棺の形からも、八幡塚古墳の王の姿について想像することができます。

? 副葬品はなかったの？

石棺は盗掘を受けていましたが、ガラスの玉や石の玉、鉄のよろい、鉄鍬(矢じり)などの破片が見つかっています。

石棺西側の「副葬品室」からは、鉄製のミニチュア農具が見つかりました。



⑤の場所で古墳の上から景色を見よう！

最後に、古墳からの景色を見てみましょう。

王は、生前から古墳づくりをしていました。古墳の上から豊かに実る田や畑、ムラビトたちの暮らしをながめたかもしれません。



ここに注目！

「見よ、わがクニは、なんと美しいクニであることか。」

かみつけの里古墳祭り(10月中旬に開催)では、この場所で、古代再現劇「王の儀式」の「古墳の儀」が上演されます。王は、土地の豊かさをほめたたえ、ムラビトの暮らしがこれからも栄えることを祈ります。

おう やめた みつでらいちいせき
王の館 (三ツ寺 I 遺跡)

ムラ (集落)

はくぶつかん
博物館

すいでん ひろ ちいみ
水田の広がる地域



ぜんぼうこうえんふん あな かたち
前方後円墳はなぜかぎ穴の形をしているの？

とてもむずかしい質問で、本当のところは古墳時代の人に聞かなければ

わからないのですが、考古学者が考えるいくつかの説を紹介します。

- 丸いお墓と、四角い祭壇がくっついたという説
- 古墳へ渡る通路が、形を変えてこの形になったという説
- 壺の形をかたどっているという説



はくぶつかん けんがく
博物館も見学してみよう！

かみつけの里博物館では、発掘調査の成果からつくられた模型と、土器や埴輪などの出土品を展示しています。ぜひ、あわせて見学してみてください。



はちまんづかこふん
八幡塚古墳セルフガイド

せいさく
制作:かみつけの里博物館